憲法改正で新しい時代へ

建国記念の日奉祝中央式典

22か国の在日外交団も参列

令和2年、皇紀2680年の「建国記念の日奉祝中央式典」（主催＝日本の建国を祝う会、会長＝大原康男氏）が2月11日、東京都渋谷区の明治神宮会館で開催された。約1200人が参加し、22か国の特命全権大使ら在日外交団も参列。第二部では「AUNJクラシック・オーケストラ」が記念公演、神輿と首都圏の大学ブラスバンド・子供鼓笛隊を先頭に約7000人が表参道を奉祝パレードした。

網谷道弘副会長の開会の辞、橿原神宮遥拝、国歌斉唱に続いて、主催者を代表して大原康男会長が挨拶した。

「本日、初代天皇の神武天皇が筑紫の日向の地から幾多の苦難の戦いの後に、大和の国の畝傍山の麓、橿原宮にて天皇の御位についたと日本書紀に記されている。慶応3年12月9日に渙発された王政復古の大号令に『諸事神武創業之始ニ原（もとづ）キ』と宣明されているように、明治維新は第二の神武建国と称されるべきものだった。明治6年に太陽暦2月11日を紀元節として祝日に定め、明治22年の同日、非欧米諸国では初めての近代的成文憲法である大日本帝国憲法即ち明治憲法が公布された。太平洋戦争の敗戦後、昭和23年に祝日としては廃止されたが、昭和41年に祝日法が改正され、『建国記念の日』として復活した。安倍首相の丁重なメッセージに感謝しつつも、公約通り可及的速やかに政府主催の式典実施を願いたい。令和の時代が憲法改正をはじめ新たな祖国の時代となることを心より祈る」

自由民主党幹事長代行の稲田朋美衆議院議員は「幾多の国難を乗り越え繁栄の礎を築いてきた先人の偉業に敬意を表したい。国民に寄り添い、被災地を訪問される天皇皇后両陛下の御心に国民一同尊崇と敬愛の念を強くしている。強い経済、社会保障制度改革、国益追求の外交、一億総活躍社会の実現に取り組み、憲法改正の議論を前に進め、国会での発議に向けた環境を整えていく」と祝辞を述べ、日本維新の会の石井苗子参議院議員は「中東に海上自衛隊が派遣されているが、憲法と法律が未整備で自衛官に過大な責任を負わせている。憲法改正に向け憲法調査会での議論を進めなければならない」と語った。

最後に、駐日外交団を代表してサンマリノ共和国のマンリオ・カデロ特命全権大使が「1万6千年以上前の縄文時代に世界で最初の陶磁器が作られ、世界最古の環境共生型文明が生まれた。初代神武天皇の即位は2680年前で、今上陛下は126代目に当たり、最古の万世一系の皇位である。神道は平和や調和を尊び、人々を分断させるような宗教ではない。日本が世界204か国の模範であり続けるよう祈念する」と祝辞を述べた。

続いて、安倍晋三首相のメッセージが読み上げられ、埼玉大学3年の高田完也氏が決議文を朗読し、満場の拍手で採択された。

紀元節の歌の斉唱、田中英道日本会議会長による聖寿万歳の後、今林賢郁理事が閉会の辞を述べた。

その後、マーチングコンテストの表彰式があり、パフォーマンス賞には立正大学、最優秀賞には国学院大学が選ばれ、大原会長より賞状が授与された。

第二部では、世界を舞台に活躍する和楽器ユニット「AUNJクラシック・オーケストラ」が記念公演をし、「花」「光への扉」「万殊の灯りに想いをはせて」「ふるさと」などの楽曲を演奏し、観衆を魅了した。

主催者挨拶をする大原康男会長（右）。祝辞を述べる稲田朋美幹事長代理（左）＝2月11日、東京都渋谷区の明治神宮会館

灯

「飢えた者にはあなたのパンを分け与え、家のない貧しい人々を家に入れ、裸の人を見て、これに着せ、あなたの肉親の世話をすることではないか。

そのとき、暁のようにあなたの光がさしいで、あなたの傷はすみやかにいやされる。あなたの義はあなたの前に進み、主の栄光が、あなたのしんがりとなられる。

そのとき、あなたが呼ぶと、主は答え、あなたが叫ぶと、『わたしはここにいる。』と仰せられる。もし、あなたの中から、くびきを除き、うしろ指をさすことや、つまらないおしゃべりを除き、飢えた者に心を配り、悩む者の願いを満足させるなら、あなたの光は、やみの中に輝き上り、あなたの暗やみは、真昼のようになる。」（イザヤ58・7―10）

かつて苦難の中にいたイスラエル民族に希望の預言が与えられた。自由と幸福を享受する時代の訪れを告げるものだった。だが、そこに至るには選民としての使命を自覚し、責任を果たすことが求められた。時が来てイエスもまた同じメッセージを携えて現れ、そのことばに従うものを探し求めた。

（1）

天地

2週間遅れで1月19日、NHK大河ドラマ「麒麟がくる」が始まった。明智光秀の記録の初出は越前に来てからで、光秀は約30歳から10年間、越前の称念寺を拠点に諸国を流浪しながら、情報を集め、医術や武術、砲術を学んだ。その光秀の旅を支えたのが、時宗や修験道のネットワークである▼美濃で斎藤道三に仕えていた光秀は、道三に対立した息子の義龍に明智城を落とされ、越前に逃れてくる。そして身を寄せ、門前に住み、寺子屋を開いたのが、住職が知り合いだった時宗の称念寺▼同寺は白山を開山した奈良時代の修験僧・泰澄により、天正天皇の勅を得て721年に創建されたが1290年、他阿真教により時宗に改めさせられた。境内に新田義貞の墓所があるのは、1338年に越前国藤島の燈明寺畷の戦いで戦死した義貞の遺骸を、時宗の僧が同寺に運び葬ったからで、以後、同寺は後醍醐天皇に忠誠を尽くした義貞の寺として栄えた▼ドラマで負傷兵を治療する僧の姿があったが、時宗の僧だろう。光秀が称念寺の住職と知り合ったのも戦場だと思われる。時宗僧は従軍僧として負傷者の治療に当たり、亡くなると供養し、武功を記録して主君や家族に知らせた。戦の合間には、茶の湯や連歌などで荒む心を癒やしていたであろう▼土岐氏の快川紹喜を恵林寺で焼き殺した信長を憎んだという。比叡山焼き討ちをはじめ光秀と宗教とのかかわりがどう描かれるのかも、ドラマの見どころの一つ。

社説

ミスラ神から弥勒菩薩へ

2016年に開かれたG7伊勢志摩サミットで「テロと文化財」と題して披露されたのが、タリバンに爆破されたバーミヤン東大仏天井壁画の復元である。天井画の中心は「天翔る太陽神」で、4頭の白馬に引かれた馬車に乗るゾロアスターの太陽神「ミスラ」である。描かれたのは6世紀半ばで、新しい仏教のシンボルである大仏を古い宗教の神が見守るという構図が興味深い。

古い神が新しい仏を守る

アフガニスタンの首都カブールの北にあるバーミヤンは、古代からの都市バーミヤンを中心とするヒンズークシ山脈山中の渓谷地帯で、バクトリア王国によって1世紀から石窟仏教寺院が開削された。5～6世紀頃には高さ55メートルの西大仏（弥勒仏）と38メートルの東大仏（釈迦仏）をはじめ多くの巨大な仏像が彫られた。630年にこの地を訪れ14日間も滞在した唐の玄奘は、「大仏は美しく装飾されて金色に光り輝き、僧院には数千人の僧が居住していた」と『大唐西域記』に書いている。

石窟の数が千以上にものぼるバーミヤンは仏教遺跡の宝庫で、1979年にソ連軍が侵攻するまでは世界的な観光地として人気を集め、71年には皇太子時代の上皇陛下ご夫妻が訪問され、パオに一泊されている。両陛下は大仏の横に掘られた通路を登って大仏を間近でご覧になり、非常に感動されていたという。その折、天井画も見られたであろう。その石窟大仏が2001年、タリバンによって破壊されたのである。不寛容の21世紀の幕開けを告げるような象徴的な事件であった。

バーミヤンの大仏は日本ともかかわりが深い。玄奘の紀行文を見た遣唐使が大仏のことを奈良に伝え、それを知った聖武天皇が民の安寧のため大仏造立を決意したからだ。

東大仏の天井画の復元は、模写とデジタル技術の融合によって実現した。日本の調査隊が1970年代から蓄積してきた調査資料や写真、ドイツの調査隊が持っていた三次元計測データを基に現物を再現し、さらに当時、金より貴重だったラピスラズリの青い顔料などを使って当時の色彩を蘇らせた。

こうした東京藝術大学の取り組みは、元学長の故平山郁夫画伯が海外に流出したアフガニスタンの文化財保護を唱え、日本に辿り着いたアフガニスタン流出文化財を「文化財難民」として保護・保管・修復したことに始まる。被爆者だった平山氏の平和への強い思いを感じる。

ミスラの両側に翼を持つ2人の女神がいるのはキリスト教の天使の影響で、女神の上にいる、上半身は人間で下半身が鳥、頭に冠をかぶり、手にたいまつを持っているのはゾロアスターの神官である。上部にいる布を膨らませた風神は中国新疆ウイグル自治区の石窟の壁画にも描かれ、日本では俵屋宗達の「風神雷神図」になる。

バーミヤン壁画は、人類史上初の体系的な宗教であるゾロアスター教と、アレクサンドロス大王の遠征がもたらしたギリシャ文明、そしてインドで生まれた仏教とが融合した「東西文明の交流」の象徴である。

その象徴が、アジア世界で広く信仰された弥勒菩薩である。未来仏マイトレーヤ（弥勒）を軸とするメシアニズムで、人類史には終末があり、そこで救世主が現れるとの歴史観もゾロアスター教に由来する。釈尊入滅後56億7千万年ののちに、弥勒菩薩が兜率天からこの世に下生し、衆生を救済するとされた。

微笑みの仏教遺跡の宝庫で、1979年にソ連軍が侵攻するまでは世界的な観光地として人気を集め、71年には皇太子時代の上皇陛下ご夫妻が訪問され、パオに一泊されている。両陛下は大仏の横に掘られた通路を登って大仏を間近でご覧になり、非常に感動されていたという。その折、天井画も見られたであろう。その石窟大仏が2001年、タリバンによって破壊されたのである。不寛容の21世紀の幕開けを告げるような象徴的な事件であった。

バーミヤンの大仏は日本ともかかわりが深い。玄奘の紀行文を見た遣唐使が大仏のことを奈良に伝え、それを知った聖武天皇が民の安寧のため大仏造立を決意したからだ。

東大仏の天井画の復元は、模写とデジタル技術の融合によって実現した。日本の調査隊が1970年代から蓄積してきた調査資料や写真、ドイツの調査隊が持っていた三次元計測データを基に現物を再現し、さらに当時、金より貴重だったラピスラズリの青い顔料などを使って当時の色彩を蘇らせた。

こうした東京藝術大学の取り組みは、元学長の故平山郁夫画伯が海外に流出したアフガニスタンの文化財保護を唱え、日本に辿り着いたアフガニスタン流出文化財を「文化財難民」として保護・保管・修復したことに始まる。被爆者だった平山氏の平和への強い思いを感じる。

ミスラの両側に翼を持つ2人の女神がいるのはキリスト教の天使の影響で、女神の上にいる、上半身は人間で下半身が鳥、頭に冠をかぶり、手にたいまつを持っているのはゾロアスターの神官である。上部にいる布を膨らませた風神は中国新疆ウイグル自治区の石窟の壁画にも描かれ、日本では俵屋宗達の「風神雷神図」になる。

決意したからだ。

東大仏の天井画の復元は、模写とデジタル技術の融合によって実現した。日本の調査隊が1970年代から蓄積してきた調査資料や写真、ドイツの調査隊が持っていた三次元計測データを基に現物を再現し、さらに当時、金より貴重だったラピスラズリの青い顔料などを使って当時の色彩を蘇らせた。

こうした東京藝術大学の取り組みは、元学長の故平山郁夫画伯が海外に流出したアフガニスタンの文化財保護を唱え、日本に辿り着いたアフガニスタン流出文化財を「文化財難民」として保護・保管・修復したことに始まる。被爆者だった平山氏の平和への強い思いを感じる。

ミスラの両側に翼を持つ2人の女神がいるのはキリスト教の天使の影響で、女神の上にいる、上半身は人間で下半身が鳥、頭に冠をかぶり、手にたいまつを持っているのはゾロアスターの神官である。上部にいる布を膨らませた風神は中国新疆ウイグル自治区の石窟の壁画にも描かれ、日本では俵屋宗達の「風神雷神図」になる。

史には終末があり、そこで救世主が現れるとの歴史観もゾロアスター教に由来する。釈尊入滅後56億7千万年ののちに、弥勒菩薩が兜率天からこの世に下生し、衆生を救済するとされた。

微笑みの弥勒菩薩は中国、韓国を経て日本にもたらされ、人々に深い癒やしをもたらした。

2016年は日韓国交正常化50周年で、東京国立博物館で特別展「ほほえみの御仏―二つの半跏思惟像―」が開催された。出展されたのは、奈良・中宮寺門跡の国宝半跏思惟像と韓国国立中央博物館所蔵の国宝78号像で、どちらも国の至宝として国民に広く親しまれている。二体の仏像の対面は初めてで、まさに「夢の出会い」であった。

微笑みに癒やされ

争いが絶えず、現実が絶望的であればあるほど、人々は未来に救いを求める。その願いを、人々は弥勒の微笑みに託したのであろう。弥勒菩薩に対面すると、自らも微笑みの人でありたいと願うようになる。悩み苦しむ人にとって、寄り添ってくれる人の微笑みこそが、救いへの希望になるからだ。21世紀を寛容の世紀にするために、世界の人々に弥勒の微笑みが浮かんでくるようにしたい。

滋賀・日吉大社の初詣

賑わう令和初の新年

令和の時代を迎えて初めての新年を迎えた滋賀県大津市坂本に鎮座する山王総本宮・日吉大社（馬渕直樹宮司）で歳旦祭をはじめ新年の行事が執り行われた。例年約10万人の初詣客が訪れており、今年も多くの初詣客で賑わった。

比叡山の麓に鎮座する日吉大社は、全国で3800社以上ある日枝神社、日吉神社、山王神社の総本宮である。およそ2100年前の崇神天皇7年に創祀され、山王権現と呼ばれている。桓武天皇により京都に平安京が遷都された折、都の表鬼門に当たる比叡山の山の神である大山咋神（オオヤマクイノカミ）を御祭神として東本宮に祀ることから、都の魔除、災難除を祈る社として崇敬されてきた。また最澄（伝教大師）が比叡山に延暦寺を開いてからは、天台宗の護法神としても尊敬されてきた。西本宮の祭神である大己貴神（オオナムチノカミ）は、天智天皇の御代に奈良の大神神社より御神霊を迎え、国家鎮護の神としてお祀りした。

山王七社とされる西本宮、東本宮、宇佐宮（御祭神は田心姫神・タゴリヒメノカミ）、牛尾宮（同、大山咋神荒魂）、白山宮（同、菊理姫神）、樹下宮（同、鴨玉依姫神）、三宮（同、鴨玉依姫神荒魂）があり、本殿である西本宮本殿と東本宮本殿は、国宝に指定されている。

境内には、魔除けの象徴として「神猿（まさる）」と呼ばれる猿が祀られており、「魔が去る、何よりも勝る」に因み大切にされてきた。

日吉大社の新年最初の神事は「大戸開神事」に始まる。1月1日の午前5時に西本宮、東本宮の本殿の御扉を開け、神様に新年の挨拶を行う。この神事に併せて観世流能楽師片山九郎右衛門社中の能「翁」（西本宮）、謡曲「四海波」（東本宮）が奉納される。日吉大社は能や狂言の源流である「猿楽」の発祥の地とも言われており、近江猿楽と言われている。新年の初日の出前の暗闇の中で松明やかがり火の灯りの中に昔ながらに舞われる様子は、まさに幽玄の美の骨頂である。

「大戸開神事」の後、夜明け前に牛尾宮・三宮が鎮座する八王子山に登ると、琵琶湖を臨む対岸に近江富士こと三上山の近くから初日の出を拝むことができる。令和2年の今年は少し雲がかかっていたが、美しい令和の初日の出が臨めた。太陽の光が湖面に反射してこれも絶景である。そして歳旦祭が執り行われ、13万坪に広がる境内は初詣客で賑わい、東、西本殿を中心として参拝者が列をなして並んでいる光景に新年の新たなエネルギーを感じさせられる。

4月には、湖国三大祭である山王祭が4日間に亘って行われる。この時には比叡山延暦寺の天台座主が五色の奉幣をされる。

また秋には3000本を超えるもみじが境内を彩り、関西屈指の紅葉の名所として有名で、四季折々に多くの参拝客で賑わう。

新年の祭詞を奏上する神職と初詣客

宗教新聞社

発行所 宗教新聞社
東京都新宿区新宿5-13-2
〒160-0022
電話 03-3353-2940（代）
FAX 03-5363-5182
郵便振替口座 00130-9-22704
URL http://www.religion-news.net

©宗教新聞社 2020

購読料（税込）
1部 500円
半年 3,000円（〒共）
年間 6,000円（〒共）

〈社是〉
一、精神革命の旗手
一、宗教連合の具現
一、地上天国の建設

本紙定期購読のお申し込みは
■ご希望購読期間 ■氏名 ■郵便番号 ■住所
■連絡先電話番号 ■メールアドレス（お持ちの場合）を明記の上、宗教新聞社宛、はがき、FAXまたはEメールで左記へお申し込みください。
宗教新聞社
〒一六〇―〇〇二二
東京都新宿区新宿5―13―2―4F
電話 03（3353）2940
FAX03（3363）5182
e-mailreligion@sage.ocn.ne.jp
http://www.religion-news.net
※購読料 年間6000円（税、郵送料を含む）

縄文のパワーフィールドへ
神道よ！今こそ《古来の本物の道》に戻るのだ！
奈良泰秀
エハン・デラヴィ 著
本物のシャーマニズムを日本人が忘れている。神道の潜在力を思い出し、世界に伝えていこう。ケルト民族末裔の意識研究家が、神道のエッセンスを聞き出す。チャネラー、ヒーラー、コンタクティを超える、宇宙と直接つながる知恵は、ここ日本の神道にあり！
四六上製1785円(税込)
株式会社ヒカルランド
〒162―0821 東京都新宿区津久戸町3-11
電話：03-6265-0852 FAX：03-6265-0853
http://www.hikaruland.co.jp

日本宗教の闇
室生 忠 著 四六判・520頁 定価：本体2,000円＋税
拉致監禁による強制棄教との戦い
信教の自由が保障された今の日本で、強制棄教を目的に拉致監禁が行われている。職業的強制改宗屋が家族を巻き込み、信者を拉致し、部屋に監禁して、脅迫的説得により棄教を迫る。特に世界平和統一家庭連合（統一教会）やエホバの証人の信者に被害者が多く、中には12年以上の監禁された人もいる。驚くべき宗教迫害のリポート。
アートヴィレッジ
受注センター
〒657-0846 神戸市灘区岩屋北町3-3-18・4F
TEL078（882）9305 FAX078（801）0006

日本よ、蘇れ 日本神話の知恵
ゆがんだ歴史観、家庭の崩壊、教育の危機……。いま日本は大きな危機に瀕しています。この現状を打破するカギは、実は「日本神話＝古事記・神代一」にあるのです。日本神話に満ちあふれる、愛と生命と知恵に立ち返ってこそ、日本の未来は拓けます。あなたも著者といっしょに、「神話の教え」をひもといてみませんか？
出雲井晶 著
●定価1000円（税込み）
●四六並製 232ページ
●発行・産経新聞社／発売・扶桑社
お問合せ先／扶桑社 販売企画部
〒105-8070 東京都港区海岸1-15-1
TEL03-5403-8859
購入申込み FAX:03-3578-3075

『先代旧事本紀』の神髄を極めた著者が語る。足で調べた大和建国の謎。
（定価：本体2000円＋税）
日本国始め 饒速日大神の東遷
大野七三 著
須佐之男尊の出雲国創建後、饒速日尊が32従者と25軍団を従え、九州から大和に東遷して纏向の地に大和国を建国。その時、饒速日尊が配下を募り配置した今も残るその出自と足跡を立証する。
批評社
〒113-0033 東京都文京区本郷1-28-36 鳳明ビル102A
TEL 03-3813-6344 Fax 03-3813-8990

自由社ブックレット2
理想の政教分離規定と憲法改正
四六判87頁／本体価格500円
杉原 誠四郎 著
憲法改正を見据えたとき、宗教に関する条項、規定は、真剣に考えねばならない問題である。
自由社
〒112-0005 東京都文京区水道2-6-3
Tel03-5981-9170 Fax03-5981-9171
http://www.jiyuusha.jp/

たま出版
www.tamabook.com
魔のJR中央線
自殺霊の撮影で判明したこと
齋藤 齋霊 著
四六判158頁 定価1,365円（税込）
十年の歳月をかけ、ついに自殺者の霊の撮影に成功。霊能者が書いた自殺防止の書。死んでも痛みは残るもの、自殺者の言い分、〝こんな筈では〟自殺をした状態で霊はさまよう、確化実自殺、政治家と自殺、自殺の多いJR中央線の謎を解く！
アシレス出版部発行
お近くの書店にない場合は下記へ 送料210円
〒229-0002 相模原市渕野辺本町2-17-14
TEL042（751）2558 FAX042（754）1818

新刊！
私の生命の復活
上橋 泉 著
四六判296頁（本体1500円＋税）
人生の苦しみに積極的な意味はあるのか？
『21世紀に生きる日本人のための浄土思想』の出版を記念して、平成26年3月から28年11月までの5回にわたる講演をまとめた著者渾身の生命の書。
日本人の宗教性（霊性）は回復するか？
株式会社 如月出版 販売部
〒152-0023 東京都目黒区八雲2-24-15 ラ リュミエール1F
TEL 03-6657-9000 Fax 03-6657-8999
http://www.kisaragibook.com

読みやすく、理解しやすく、真髄を極める達意の新訳
クルアーン やさしい和訳
監訳著・水谷 周 訳補完・杉本恭一郎
2019年7月第3版発行、資料増補、大改訂 定価2700円＋税
国書刊行会
〒174-0056 東京都板橋区志村1-13-15
TEL：03-5970-7421